日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第2回編集運営委員会　開催日：5月13日．出席者：加藤委員長，ほか8名．

1．講演大会分科会より，56年度秋の講演大会についての報告がなされた．

2．ヘンダーソン賞については，従来通りの方法で推薦を依頼することとなつた．

第3回和文会誌分科会　開催日：5月13日．出席者：加藤主査，ほか19名．

1．27件の論文審査報告がなされ，掲載決定20件，修正1件，その他6件であつた．

2．「鉄と鋼」第67年第11号（9月号）に論文13件，展望1件，技術資料2件，解説2件掲載決定した．

第3回欧文会誌分科会　開催日：5月15日．出席者：中村主査，ほか11名．

1．17件の論文につき審査報告がなされ，掲載可6件照会後掲載可5件，修正依頼3件，一旦返却2件，返却件であつた．

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第50回SC4分科会　開催日：4月21日．出席者：光島主査，ほか13名．

1．次回SC4国際会議対策．

2．5年ごとのISO定期見直し回答案の確認．TC17 N1947の中でSC4関係の4規格（ISO683/15, 16, 17, 18）の扱いについて討議した．

……

第82回鋼管分科会　開催日：4月20日．出席者：丸岡主査，ほか14名．

1．めつき管の単重について

2．自動車用ERW規格案の検討

3．シリンダー用鋼管規格案の検討

……

第2回JIS鋼杭原案作成分科会　開催日：4月20日．出席者：福岡主査，ほか19名．

鋼管杭規格案の討議（JIS A 5525に関する意見をもとに下記の条項毎にコメントについての理由説明を受けながら討議を行つた．）

適用範囲／種類及び記号／杭の構成及び各部の呼び方／品質／形状，寸法，重量及びその許容差

ISO/TC17運営委員会

第9回ISO/TC17事務局専門諮問部会

開催日：4月8日．出席者：青木部会長，ほか19名．下記事項について報告および審議が行われた．

1．INSM推進

実用性拡大の可能性，番号構成の考え方等TAG/WG 2中間報告および今後の検討方向

2．SC19活動支援策

SC19が扱うwork itemとして，一般構造用鋼管も考えられる（TAG/WG 3報告）．なお，steel for tubeだけの規格をTC17/SC19で作成する方向はありえないだろう．

3．その他検討依頼事項8件について答申，中間報告および今後の進め方が討議された．

4．PLACO/TAG 2（81-06-17/18）対策Technicalな議題案およびTC25提案に対する意見を各委員から提案していただくことになつた．

5．その他，ASEAN Regional Steel Standardizationに対する協力など事務局活動が報告された．

日本学術会議第82回総会報告

日本学術会議第82回総会は，4月15～17日の3日間開かれた．

第1日は9時35分開会，ただちに会長報告が行われた．会長は第11期では各種委員会の本格的活動の開始までに，半年間を費やした経験にかんがみ，今期は活動計画委員会でつめた結果に基づいて，今総会において各種委員会を発足させ，実質的審議を早めたいという基本方針を述べた．なお，政府の科学技術政策の新しい動向に注目し，科学技術会議については，第80回総会の要望「工学技術振興の方途を早急に講ずることについて」との関連もあり，今期からはやや詳細に報告する旨を述べた．続いて，日本学術振興会，広報，財務，国際会議主催等検討および工学技術振興の運営審議会付置各委員会報告があつた．

各部報告は，書面により行われ，国際学術交流，国際協力事業両委員会も書面をもつて報告に代えた．学問・思想の自由委員会は口頭により第11期に採択した「科学者憲章」を国民に呼びかけ，それを普及するため，5月28日講演会を本会議講堂で開催することを報告した．第12期活動計画委員会の報告をうけて，会長から年度末の多忙な時期に全会員の協力の下に精力的に作業を続けた同委員会と，事務局職員の献身的協力への謝辞が述べられた．

休憩の後，「第12期における日本学術会議の活動要綱について(申合せ)」の提案，審議が行われた．この提案は総会前日の連合部会でも報告されたので，提案理由は要綱分科会委員長の補足的説明のみとした．続いて24～5名の会員から，活発な質問，意見がだされ，日本学術会議と各省庁との関係や，本会議の基本性格にふれる問題から，活動の具体的内容にいたるまで，論点は多岐にわたつた．13時7分再開，それらの意見をふまえ，文言上の修正も加えた提案が圧倒的多数で採択された．本要綱では，（1）学問研究の長期的展望の確立，（2）人間の可能性を展開させる

教育の探究，(3)平和に貢献する科学者の責務の遂行，が今期活動の重要目標とされている．

ついで「第 12 期における課題および各種委員会（研究連絡委員会を除く）の整備について（申合せ）」が提案され，(1)委員会の構成および運営上の事項　(2)委員会の任務，課題について　(3)運営審議会付置小委員会について説明された．常置委員会としては国際学術交流，学術体制，研究費問題，長期研究計画，科学者の地位および学問・思想の自由の6委員会，特別委員会としては，平和と科学，教育問題，科学・技術振興機構，エネルギー・原子力，学術情報・資料，発展途上国学術協力問題，自然災害問題，環境問題，生物資源および国際協力事業の 10 委員会が設置された．なお，運営審議会付置として広報等毎期常設の委員会の外に日本学術会議改革，研連検討，沖縄学術連絡の各小委員会が設置された．

休憩後，15 時 17 分「第 12 期における研究連絡委員会問題の根本的改革について(申合せ)」の提案があり，数名の会員から質問がだされ，翌日になお審議を継続することとなつた．

第2日は 10 時2分再開，冒頭，第1日に採択された「課題及び各種委員会の整備について」の文言修正について報告があり承認された．

ついで，前日に引き続き「研究連絡委員会問題の根本的改革について」審議が行われ，活発な意見が述べられた．

さらに，第 12 期における根本的な改革に至るまでの暫定的措置をとりきめる「第 12 期における研究連絡委員会の組織・運営に関する当面の措置について(申合せ)」が提案され質疑がかわされた．12 時 45 分再開後の総会で，文言の修正を行なつた前記二つの提案が採択された．

13 時より各部会が開かれ，常置，特別，運営審議会付置の各委員会委員の選出を行なつた．それに基づいて 16 時より各常置委員会，16 時 30 分より各特別委員会が開かれ，委員長，幹事を選出した．

第3日は 10 時より前日に引き続き各常置，特別委員会が，15 時まで開かれた．各委員会では，今総会中に役員決定のみでなく今期の委員会活動について実質的審議をはじめるという趣旨に基づき，委員会の任務，方針が討議された．15 時より運営審議会付置の各委員会およびＩＣＳＵ等の分科会が開かれ，ここでも，それぞれの任務，審議事項が議せられ，役員が決定された．かくして，第 12 期のすべての委員会が早くも体制を整え，活動を開始することとなつた．

総会の出席率は，第1日 91.9%，第2日 95.2%，第3日 93.3%であつた．（日本学術会議広報委員会）

次号目次案内

鉄と鋼　第 67 年　第 10 号（8月号）目　次

技術資料

溶接部の水素による遅れ割れ……鈴木　春義・百合岡信孝

自動車用特殊鋼の最近の動向（2）……加藤　哲男・阿部山尚三・上原　紀興

解　説

鉄鉱資源とその開発の現状……西田　信直

真空熱処理の動向……山中　久彦

金属資源シリーズ―ニオブ―……植木　正憲・門　智

最近の光通信技術の進歩……末松　安晴

論文・技術報告

鉄鉱石の小型高圧流動還元実験装置
……西川　泰則・佐藤　享司・植田　芳信・鈴木　良和・佐山　惣吾・佐藤　俊夫

溶融 Fe-C 合金における相互拡散係数の温度依存性
……鰐部　吉基・高井　章治・藤澤　敏治・坂尾　弘

MgO 焼結体の溶融 Fe_tO-CaO-SiO_2 系スラグへの溶解速度……馬越　幹男・森　克己・川合　保治

Fe_tO-SiO_2-CaO-MgO 系スラグの MgO 飽和溶解度と Fe^{3+}/Fe^{2+} 平衡……沈　載東・萬谷　志郎

MgO 飽和 Fe_tO-SiO_2-CaO-MgO 系スラグと溶鉄間の酸素の分配……沈　載東・萬谷　志郎

Na_2O-SiO_2 系スラグ中の硫黄の状態および硫黄と鉄の相互作用……岩本　信也・巻野勇喜雄・西村　泰輔

冷間圧延中に生成するスマッジおよび鉄酸化膜……駒井　正雄・福山　敏・佐藤　台三・池高　聖

厚肉 UOE 鋼管製造のための大電流 MIG＋タンデムサブマージアーク溶接法の開発
……平林　清照・平　忠明・市之瀬弘之・平野　攻

80 kg/mm² 級高張力鋼の Ca 添加による応力除去焼なまし割れの改善
……大野　恭秀・岡村　義弘・矢野清之助・藤井　利光・山本　広一

下限界応力拡大係数 K_{ISCC} の AE による評価……野末　章・岸　輝雄・堀内　良